

令和7年度
(第21回)

運営諮問会議報告書

令和8年3月

新居浜工業高等専門学校

目 次

はじめに

1. 運営諮問会議次第	-----	1
2. 運営諮問会議委員名簿	-----	2
3. 学校側出席者名簿	-----	3
4. 議事及び質疑応答の概要	-----	4
5. 説明資料	-----	20
6. 新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程	-----	39

第 2 1 回新居浜工業高等専門学校運営諮問会議 次 第

1 日 時 令和 8 年 3 月 1 0 日 (火) 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 3 0

2 場 所 新居浜工業高等専門学校 階段教室

3 日 程

時 刻	事 項
1 4 : 0 0	開会 校長挨拶、委員紹介、学校側出席者紹介、議長選出
	議題
1 4 : 1 0	1. 学校概要について-----校長
1 4 : 2 0	2. 昨年度の活動状況と自己点検に基づく、令和 7 年度の新たな取組について (1) 教育に関する事項-----教務主事 専攻科長 情報教育センター長
1 4 : 4 0	(休憩)
1 4 : 5 0	(2) 学生支援に関する事項-----学生主事 寮務主事
1 5 : 0 0	(3) 研究・地域連携、及び社会貢献活動に関する事項 -----高度技術教育研究センター長 副校長 (改革担当) エンジニアリングデザイン教育センター長
1 5 : 1 5	(4) グローバル教育に関する事項----グローバル教育センター長
1 5 : 2 0	(5) ダイバーシティに関する事項----ダイバーシティ推進室長
1 5 : 2 5	(6) 点検・評価に関する事項-----副校長 (評価担当)
1 5 : 3 0	(休憩)
1 5 : 4 0	(意見交換及び質疑応答)
1 6 : 2 0	総評
1 6 : 3 0	閉会

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏 名	現 職
河 上 芳 一	愛媛県東予地方局長
白 石 誠 一	新居浜商工会議所 会頭 ((株) 白石工務店 社長)
西 原 覚	住友金属鉱山 (株) 執行役員 別子事業所長
平 田 利 實	ユースエンジニアリング (株) 元代表取締役社長 (本校電気工学科 昭和44年卒業)
古 川 拓 哉	新居浜市長
細 川 成 己	経済産業省 大臣官房審議官
森 脇 亮	国立大学法人愛媛大学大学院理工学研究科工学系長 国立大学法人愛媛大学工学部長
矢 野 雅 士	愛媛県小中学校長会 理事 新居浜市立中萩中学校長

代理出席者

(敬称略)

大 野 隆 史	愛媛県東予地方局 地域産業振興部長
田 岡 卓 晃	経済産業省 大臣官房産業保安・安全グループ 保安政策課長

学校側出席者名簿

職 名	氏 名
校 長	東 海 明 宏
副校長 (総務企画担当)	日 野 孝 紀
副校長 (評価担当)	福 田 京 也
副校長 (改革担当)	衣 笠 巧
教 務 主 事	加 藤 克 巳
学 生 主 事 (兼)保健管理センター長	志 賀 信 哉
寮 務 主 事 (兼)グローバル教育センター長	白 井 みゆき
専 攻 科 長	西 井 靖 博
高度技術教育研究センター長	高 見 静 香
高度技術教育研究センター 研究推進部門長	松 友 真 哉
高度技術教育研究センター 地域連携部門長	喜 多 晃 久
高度技術教育研究センター 高度教育部門長	三 井 正
エンジニアリングデザイン 教育センター長	吉 川 貴 士
情報教育センター長	占 部 弘 治
ダイバーシティ推進室長	塚 本 亜 美
機械工学科 主任	松 田 雄 二
電子制御工学科 主任	栗 原 義 武
生物応用化学科 主任	堤 主 計
環境材料工学科 主任	松 英 達 也
数理科 主任	朝 日 太 郎
一般教養科 主任	森 長 新
事 務 部 長	下 元 利 之
総 務 課 長	藏 田 修 一
学 生 課 長	徳 増 耕 平

議事及び質疑応答の概要

議題

【担当者から配付資料に基づき説明】

- 1 学校概要について …… 校長
- 2 昨年度の活動状況と自己点検に基づく、令和7年度の新たな取組について
 - (1) 教育に関する事項 …… 教務主事
情報教育センター長
 - ～ 休憩 ～
 - (2) 学生支援に関する事項 …… 学生主事
 - (3) 研究・地域連携、及び社会貢献活動に関する事項 …… 高度技術教育研究センター長
 - (4) グローバル教育に関する事項 …… グローバル教育センター長
 - (5) ダイバーシティに関する事項 …… ダイバーシティ推進室長
 - (6) 点検・評価に関する事項 …… 副校長（評価担当）
 - ～ 休憩 ～

意見交換及び質疑応答

【森協議長】

それではこれまでの説明につきまして、委員の皆様からご意見を頂戴する時間を取りたいと思います。こちらの進行につきましては、学校側をお願いいたします。

【日野副校長】

副校長（総務企画担当）の日野でございます。初めての委員の方もおられますので、質疑の内容を少し絞ってお伺いしたいと思いますので、一旦この場をお預かりいたします。

まず、「第20回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応状況について」ですが、こちら昨年度の本運営諮問会議で委員の皆様から質問、それに関する当日回答した内容も含まれますので、ご紹介までにとどめさせていただきます。

○教育理念、教育の基本方針、教育目標、3つのポリシー

【日野副校長】

まず、本校の卒業要件をはじめ教育の方針についてご紹介いたしました。これに関して社会が求める人材育成にマッチしているかどうかに関してご意見を頂戴したいと思います。

【西原委員】

平素より当社の事業に対するご理解、ご支持に対して感謝申し上げます。新卒で専攻科含む毎年 13 名から 15 名の卒業生の方が当社に入社いただいております。当社グループ全社で 4,200 人おりますが、その中で新居浜高専生の方が 216 名ということで、これが全社の社員で 5%ということになっております。新居浜地区では 1,800 名の社員のうちで実に 190 名、11%、10 人に 1 人が新居浜高専生の方ということで、非常に活躍されていることに感謝申し上げます。本当に皆さん仕事に真摯に取り組んでおられ、かつ技術的な知見、知識があって、新しいものを取り入れる、そういった積極的な方が多いという風感じております。

少し意見を述べさせていただきます。この教育理念、教育の基本方針、教育目標、3つのポリシーにつきましては、本当に社会的な必要性だとか、あるいは企業運営の側面から見ましても、今の時代に沿って非常にアップデートされているんじゃないかなということで、全体に関し私は非常にいいポリシーであると、PDCA も回されているという風に考えております。

カリキュラムのところ、やはり一番難しいのは 4 年生、5 年生だと考えております。ここはやはり社会とのつながりを持たず一番大切な時間と思っております。先ほどの資料でも 200 名中 130 名の方が就職されているということを考えますと、この 4、5 年生は非常に大切かなと。やはり知的好奇心であるだとか、社会性、倫理観、あるいは人文、社会科学と自然科学との相関性であるだとか、国際性、政治経済、金融、カルチャー等ですね、これ大学では一般教養と言われていると思うんですけども、それと同じことを教えたら大学と同じじゃないかということになりますので、やっぱり一味違った、教養の幅をさらに広げるようなカリキュラム、専攻科では一部入れられてると思うんですけども、やはり 4、5 年生のところも少し幅をぐっと広げていただいてもよろしいのかなと感じました。

私が大学生のことを思い出しますと、他学部の講義に行ったりだとか、あるいは大学で主催する知識人、企業人の講演や講座を積極的に受けに行ったりしていました。

やはり学生の方には自由であってほしいと思います。やっぱり自らで取りに行く知識あるいは情報が一番身につくと思います。これはインプットする力を醸成するというだけでもございますので、ぜひ学生の方にはいろいろな機会を与えていただきたいなと思います。私の方からは以上です。

【日野副校長】

ありがとうございます。教務主事、このことに関して何かございますか。

【加藤教務主事】

貴重なご意見ありがとうございます。現在のところ、我々としては 1 年生から 5 年生まで授業がありまして、いわゆる一般科目と呼ばれる大学という教養と、専門科目という二つにまず大きく分ける形にしております。その中で、それを組み合わせるという形で、低学年から高学年に進むにしたがって、徐々に幅を広げるというような形のものにしております。最初のうちは基礎的なところを学び、だんだんと高度なところを学ぶと、特に専門分野に関

してはそういうふうにはせざるを得ないというところもありまして、4,5年生は専門科目が多くなっております。

例えば低学年、高学年に関わらず、先ほど他学部の授業を受けに行くというような話もありましたけれども、我々としてはいわゆる学科横断という考え方をもう少し取り入れていったらどうかというような検討も行っております。そこではいろんな学科の学生が同じ授業を受ける、場合によってはグループワークの中で同じグループで議論する、というような授業スタイルでありますけれども、今後そういったことも含めながら学生が学びの幅を広げるといったところについても考えていきたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

○学生支援（いじめ対策）

【日野副校長】

ありがとうございます。限られた時間でもありますので、また違った観点についてお伺いしたいと思っております。

学生が本校で学ぶ上でも健やかに過ごしていただくことも大事ではありますが、昨今、いじめの問題というのもいろんなところで学校関係者、学校現場において聞かれるところですが、本校のいじめ対策であるとか学生支援に関して何かご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

【矢野委員】

中萩中学校の矢野でございます。まずは日頃から新居浜市内の中学生をたくさん受け入れていただいて感謝しております。また、ものづくりのまち新居浜を担う若い人材を率先して育成していただいており、先期的に取り組まれているなということで、改めて敬意を表したいと思っております。本当にありがとうございます。

学生支援、いじめ対応ということに関して意見を述べさせていただきます。まず、御校が掲げる基本計画、それから防止プログラム、それから対処マニュアルを見せていただきました。非常にしっかりしたものが作られているなというふうに思っております。本当に素晴らしい、小中学校も見習わなければいけないという部分がたくさんあるなと思っております。ただ肝心なのは、こういったものをどう活用していくか、運用していくかだろうと思っております。本日の説明の中には特に出でなかったですけども、まず質問させていただきたいと思うのですが、例えば昨年度、一昨年度あたりで新居浜高専さんの中でいじめを認知、あるいは相談、このあたりの件数というのはどういった実態なのかなというのを教えていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

【志賀学生主事】

はい、ありがとうございます。いじめ認知の件数、細かい数は今申し上げにくいですけど、一桁台、10件には満たない件数でございます。その中でいわゆる重大案件はゼロでございます。

ます。

【矢野委員】

ありがとうございます。文科省からも積極的に認知を進めていきたいと思います。ここ十数年、右肩上がりに認知件数が増えているかなと思います。決していじめがゼロ件ですよというのが良いわけではなくて、そうやって積極的に認知をすることで早期発見・早期対応していくことが何よりかなと思いますので、そうやって認知されているということを知って安心したところでございます。

対応等具体的なことについて少し意見を述べさせていただけたらと思います。まず情報共有、記録共有が重要であると書かれてありますが、まず情報収集のところ、年に2回のアンケート、生活アンケートといじめアンケートを合わせると年4回、前期後期で1回ずつという形になっているというところですが、果たしてこの回数で良いのかというところが一つ、疑問というか感想を持ちました。例えば市内小中学校であれば、毎月1回生活アンケートを、タブレット端末を使って今年から行っています。昨年度までは保護者にもアンケートを取っておりました。そうすると保護者からはいじめに関する以外意見の意見をたくさんいただくので、今年からは生徒のみのアンケート調査だけということにしております。リアルタイムでこういった情報収集をするのであればもう少しアンケートを増やすっていうのも一つの方法なのかなと思われま。そのあたり、またご検討いただけたらいいのではないかと思います。

相談室、相談窓口も設置されているということで、ここも非常に素晴らしいシステムだと思います。例えば本校であれば、ハートなんでも相談員さんが勤めていただいているんですけども、週に3日程度の勤務となっているので、必要な時に相談をしたいと思ってもなかなかタイミングが合わなかったりするのがあります。御校における相談窓口の職員さんは常時いらっしゃるということなんですか。

【志賀学生主事】

はい、学生が困った、何か相談に乗るよという時にはまず最初に本校の看護師が対応して、それとは別に学生相談室長という常勤教員が担当しているんですけど、その学生相談室長に看護師から繋いで、これはカウンセラーさんと話した方がいいねというような差配をするというかたちで、高いレベルでなくても雑談程度のところからうまくその学生の悩みを吸い上げるというようなことが、今上手く回っているというところなんです。

それもあって、アンケート4回で良いのかというところですが、アンケートの回数、何回が良いのかと私の中でも答えが見つかっておりませんが、多くすればするほど学生が「あまたか」というので適当に回答される恐れがあるのではないかと思います。いじめのできるだけ早期発見、拗れる前にその情報を取りたいと思いますので、それが看護師のところに気軽に相談に来れる状況でありますので、そこでうまく対応できているというふうに考えております。

【矢野委員】

ありがとうございます。常駐職員さんがいらっしゃるということで安心しました。ただ面と向かって話すのが苦手なお子さんというのも最近増えてきているので、そういう意味ではデジタル、紙でもいいんですけれども、アンケート調査をする中で出てくるケースもあるかもしれないので、またご検討いただけたらと思います。それから相談窓口、対面ということでもいいんですけれども、例えば SOS を発信するような窓口をデジタルで企画する、県でも SOS 窓口みたいなのがあると思うんですけれども、高専さんですのでそういったデジタルなことがお得意な方もたくさんいらっしゃるから、そういったシステムを作るのも比較的たやすいのかなと勝手に思ったりもします。先ほどのアンケートも含めて対面でなかなかコミュニケーション能力がちょっとしんどいなと思うような学生さんもいらっしゃると思うので、そういった方法も一つの選択肢かなと思いました。

それから最近 SNS によるいじめ対応が非常に難しくなっています。いじめなのかトラブルなのかの線引きが非常に難しく、発見も難しいし、対処も難しいなというところが実際中学校の校長をしていて感じるところです。年齢が上がれば上がるほどもっと巧妙になったり表に出にくくなりますし、逆に大人になるにつれてそういうのは無くなっていくのかなと思ったりもしますが、そういったことに関するアンテナを高くしておくというのはとても大事だと思いますので、そのあたりも今後、今からの時代のいじめ対応における一つの懸念事項としてお伝えさせていただきます。

それから小中学校と違うのが保護者と教職員との関係性ですね。どこまで親密度があるのかなと思ってまして、小中学校、特に小学校なんかは毎日のように連絡しないといけないケースなんかもあるんですけれども、その中で保護者から得られる情報とか早期に対応できたりするきっかけっていうのが見つかったりします。高専の場合はそういったところも保護者との距離感がだいぶ小中学校に比べると空くのかなと思ったりもするので、保護者からの情報収集というような方法も一つ考えておいていただければと思います。以上でございます。

○地域連携、学生のキャリア教育

【日野副校長】

ありがとうございます。貴重なご意見いただきました。また本校での PDCA の中に組み込んで検討させていただきたいと思います。

続きまして、地域連携であるとか学生のキャリア教育に関して、様々な取組を紹介させていただきましたが、こちらに関してのご要望とかご意見をお願いします。

【古川委員】

早速質問に入らせていただきます。地域連携、学生のキャリア教育の愛テクフォーラムについてお伺いします。国領祭における地域の産業紹介ブース設置は学生が地域企業を身近

に知り、将来の進路や職業観を育むうえで有意義な取組であると考えています。特に新居浜高専の優秀な学生が本市企業に関心を持っていただき、将来的な就職につながる契機になることは大変喜ばしく、本市企業を進路先として考える学生に対し、地元企業への理解を深める機会を設けていただけることは有意義であるというふうに考えています。

また、人材の流動性が高まってきたので、将来、故郷でとか学生時代を過ごしたところに帰りたくなった時に、地元の企業を知っているか知らないかっていうのは大きな違いがありますので、そういった意味でも大変重要な機会であると思っています。地域住民や保護者が参加する文化祭において、このような取組を実施されるのは、新居浜高専と地域との結びつきをわかりやすく伝える機会ともなりますので、地域活性化の観点からも大変有意義であると思います。

周知について連携して取り組んでいければとも考えておりますので、また担当課等にご相談いただければというふうにも考えております。

最後に、よりふさわしい手法として、高専の入学を検討している中学生なんかも、できれば幅広く参加できる機会や工夫というものをしていただけたらというふうに思っておりますし、実際にその企業で就労している卒業生等々の話を聞く機会を作るということも有効ではないかと考えます。これによって、中学生にとっては高専での学びや卒業後の進路をより具体的にイメージしやすくなるというふうに思いますし、また、高専にとっても企業の業務内容に加え、福利厚生など様々なところの理解を深める、そういった機会になるのかなというふうに考えておりますので、よろしく申し上げます。

○イノベーション人材育成

【日野副校長】

貴重なご意見いただきありがとうございます。今後ともご協力を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、イノベーション人材育成に関する取組も紹介させていただきました。ちょうど経産省の方もお見えになっております。我々、文科省に関連するテーマについて進めているところではありますが、異なるフィールドからのご意見とかご感想等も頂戴できればと思います。いかがでしょうか。

【田岡氏（細川委員代理）】

初めて参加させていただきます。経産省の田岡と申します。昨年、経産省から私の上席が訪問させていただいたところ、それをきっかけにお声を掛けていただきました。誠にありがとうございます。

私自身がイノベーションを直接担当している部局ではないんですけれども、先ほどの地域連携のお話とも絡みますけれども、やはり高専さんは技術の専門人材を輩出する地域の大事な拠点だということで、全国で非常に貴重な存在として評価を受けていらっしゃる

思います。地域での産学官連携で、新しい取組を生み出していこう、そういう人材を輩出していこうというところの大きな拠点だと思っております。今各地域では、地域でのイノベーション創出ということで産学官金、行政自治体、大学、高校とか高専さん、金融機関とか一体となって、イノベーションを作っていこうと思っておりますけれども、いろんな機関の繋がりがすごく大事だと思っております。学生さんから見ても、日頃の研究や学問に加えて実際に社会に役立つためのビジネスを創出するためにはいろんな方との出会いというのが大事ですので、出前講座とかスタートアップのビジネスモデルコンテストのようなものやっ
てらっしゃるとか、様々なことをやっ
てらっしゃると思うんですけども、こういうことを通じて地域で素晴らしい将来のイノベーションを生み出す人材を生み出していただきたいですし、地域イノベーションの取組の中から一つでも二つでも地域で成功モデルみたいな方が出てくると、モデリングでは無いですけど、自分の先輩、卒業生の先輩たちはこんなにすごい人があるんだということで次に繋がっていくということもあると思いますので、そういったところをやっ
ていただければと思います。

あと経産省の関係でいくと、私自身は今産業保安を担当していますが、昨年までは特許庁におりました。先ほど日本弁理士会さんとかとも繋がられて知財を活用した取組なんかも高専さんはやっ
てらっしゃるとお聞きしました。こういう自治体とか私どもの特許庁の方も特許の取得とかこういったことでイノベーションをビジネス化するっていうところに支援していますので。それから地域の商工会さんとかも一緒になって地域知財のネットワークづくりっていうのをやっ
ていますのでぜひ繋がっていただければなというふうに思
っております。

また、高市政権の場合は17分野の成長分野というところで、深堀してものにしていこうぜということをやっ
ています。量子とかバイオとか半導体とかAIとかですね。あと経済保障関係とか防災、国土強靱化みたいないろんなプロジェクトがありますけれども、こういうような動きってのがきつとイノベーションのビジネスの種になりますので、そういう動きなんかもしっかり見ていただいて、情報をアンテナ高く収集していただいて、実際の事業としてできるのは何かってものを、見て、やっ
ていただけるといいんじゃないかなというふうに思
っております。私からは以上です。

【日野副校長】

ありがとうございました。イノベーション人材を推進しております改革担当副校長、何かございますか。

【衣笠副校長】

ありがとうございます。イノベーション人材といいますかアントレプレナーシップ教育ということが盛んに言われるようになってきました。本校でも2年前に高専機構全体でこういったことを推進していくということで大きな予算が付きまして、それから続けているわけですが、アントレプレナーシップということとスタートアップでちょっと分けて考えて、学生全体にアントレプレナーシップということを身に着けてもらおうというか、

そのことは進めていくべきだと思っています。ただアントレプレナーシップというのは我々がずっとやってきたエンジニアリング教育、そもそもアントレプレナー、イノベーションを生み出す人材ということでしたので、そこをもう少しわかりやすくというか、学生にもっと自分で起業（企業を興す）できるし、あるいは企業の中でそういったこともできるということをいかに広げていくかっていうことをできるかなと思っています。

またスタートアップにつきましても、まだ外部の方との連携というのはこれから取ろうとしているところです。学生の方から学校の方にこういうことしたいんだけど、という提案があったわけではないのでそういうことがあった時のために、じゃあどこに繋げていけばいいのかといったことも考えて、学校全体として学生をフォローできるような体制を作れるかなと思っていますので、そういった際にはいろいろとお話をさせていただくと思いますがよろしく願いいたします。ありがとうございました。

〇ワーク・ライフ・バランス

【日野副校長】

今後とも中央の方との繋がりを持ちつつ推進していければと思いますので、よろしくお願いいたします。

ワーク・ライフ・バランスに関しまして、昨年の運営諮問会議でも女性比率のことについてご質問いただきました。全国の高専を見ても女子学生、それから我々スタッフも水準よりは超えているところではありますが、まだまだ男性が多い職場環境であります。今後推進していくうえでも何かヒントになるようなことをいただけたらと思うのですが、この点に関していかがでしょうか。

【大野氏（河上委員代理）】

まず新居浜高専様には、本県のような様々な施策に多大なるご協力をいただいております。厚くお礼を申し上げます。

私の方から、まずダイバーシティに関してですが、先ほどご説明ありましたように、貴校では女子学生の割合が全国トップクラスということのようです。地方局が中心となって推進しておりますものづくり企業人材確保対策事業のキャリアデザインセミナーにおきましても、多数の女子学生の皆様に参加いただきました。貴校の生活面も含めました様々な支援が、こういう女子学生の増加に寄与しているものと推察をいたしております。まずこちらで学ばれた学生さんが、この地元の企業で活躍いただくことになれば、Uターンというような形でも構いませんし、若年女性の流出の抑止ということにも繋がりますので、引き続き女子学生の確保にご尽力いただければと思います。

それからもう一つのワーク・ライフ・バランスに関しまして、各種制度の周知や研修会等による男女共同参画意識の浸透などが今後の課題ということでございました。県におきましては、男女がともに働きやすくやりがいをもって就業できる環境の整備を進める企業

や団体の皆様を、県が認証するひめボス宣言事業所認証制度というものの普及を進めております。本年 2 月末現在の認証件数は全体で 936 件となっております。業種別にみますと教育・学習支援業では、愛媛大学様、松山大学様、私立高校などの 13 の法人がすでに認証を受けられております。こちらの貴校におかれましても、ぜひひめボス認証の取得についてもご検討いただければと思っております。以上でございます。

○自己評価・点検体制

【日野副校長】

ありがとうございます。本校の取組も外部から評価されやすいように、周知が広がるように、そういった取組にも積極的に参画していこうかと思っております。どうもありがとうございました。

最後になりますが、本校のこのような取組に関して、定期的に外部評価を受けながら内部での PDCA、それから自己点検をしているところではあるんですが、こういった体制についての総括的なご意見も頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。

【森脇委員】

点検評価について、その体制がしっかりされていること、また、定期的な高専の機関別認証評価に加えまして毎年の自己点検をしっかりされているということで高く評価できるものと考えております。特に体制の資料を拝見すると、委員会が PDCA のうちどの位置付けなのかのかがしっかり対応づけて明確に記述されており、非常に有用であると考えております。

一点質問ですが、学生の意見とか学生との懇談会、アンケート等を用いて、学生の声を聞かれているということですが、例えばそれによってカリキュラムを改革したなどの事例があれば、ご紹介いただけますでしょうか。改善がどのように行われているのか、学生さんの声をどのように拾い上げているのかがイメージしやすくなると思います。何か捕捉説明いただけることがあればお願いいたします。

【日野副校長】

学生の意見に応じて、カリキュラム的なこととなりますと教務主事、何か事例ございますか。

【加藤教務主事】

ありがとうございます。ちょっと思いつくところがパッと頭の中にはないんですけども、例えば授業改善とかそういったものに関しましては、アンケート結果を踏まえて、授業改善に取り組むとか、そういったことは頻繁に行っています。

カリキュラム全体だと、学生からの意見としては例えば、教える内容ですね。低学年で教わった内容を高学年でもう一回、結構時間をかけてやるというようなのがあって、それがわかっている人にとっては重複になるというようなところがあって、そういったところに関して、授業のスリム化というところも含めて改善を行うとか。逆もありますね。逆もあって、

低学年で習っていない内容をあたかも知っているような前提にして高学年の授業が行われたというようなのもあって、そういったことなるべく起きないようにいろんな改善を図っているというのはございます。

【日野副校長】

学生からは様々な意見が出てきますが、レポートの提出方法であるとか、できる範囲のことを学科単位それから科目担当での改善に繋げております。ちょっと具体的な紹介ができず申し訳ないんですが、学生生活、学生支援に関して何かありますか。

【志賀学生主事】

学生支援に関しては、例えば、学生食堂や売店、そこで電子決済が使いたいというような意見が昨年出まして、今年度それに沿う形で導入しました。あとは、自分たちのいる建物の近くに自動販売機が欲しいというのが、それぞれの建物の学生から出てきますので、これはどう対応するんだというところで、学生会の方に取りまとめてもらおうかなというような動きがありました。勉強以外の面での話でございます。以上です。

【日野副校長】

様々な意見に関して、少し取りまとめてまたご報告の機会を設けさせていただけたらと思います。我々の方でマイクをお預かりしていろんなご意見を伺ったんですが、十分お聞き取りできなかったことに関しましては、この運営諮問会議の後におきましてもメール等々でお伺いして、本校の改善に活用できたらと思いますので、今後ともご協力よろしくお願いたします。マイクをお返しいたします。

【森協委員】

ありがとうございました。その他全体を通して、委員の皆様からご意見などございますでしょうか。

○地域連携、学生のキャリア教育

【白石委員】

商工会議所の白石でございます。本日私は初めてこの会に参加させていただきまして、本当に素晴らしい先端技術、そしてグローバルな教育をされているということで本当に感銘申し上げます。

そして我々商工会議所としてはですね、地域経済ということで、本当に人材確保に苦慮しているのも現実であります。そういう中、キャリア教育における国領祭での地域産業紹介ブースは学生の地域企業と直接交流できる大変有意義な取組であり、キャリア教育と地域連携の双方の観点から高く評価させていただいております。特に低学年の段階から地域企業を知る機会を設けている点は、将来的な地元就職や地域定着に繋がる重要な取組だと感じております。現在、地域産業界では人材確保が大きな課題となっておりますが、学生の地域産業を理解し、企業と学校が継続して繋がること、いわゆる地域人材循環が生まれてくるの

を期待しております。今後は体育館での開催などによる規模拡大や保護者への情報発信の強化、さらには企業の課題と学生、教員の研究を結びつける実践的な連携が進むことを期待しております。商工会議所といたしましても、企業への周知や参加促進を通じて、高専と地域産業との連携強化に協力してまいりたいと考えております。

新居浜高専は地域のものづくり人材を育てる大変重要な教育機関であり、今後も地域産業と教育機関が連携しながら、人材育成と地域産業の発展が好循環を生み出す取組がさらに進むことを期待しております。会議所からは以上でございます。

【森協委員】

どうもありがとうございました。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。



後日いただいた意見等

○イノベーション人材育成

【細川委員】

特に地方都市では、人材不足のため、AI の活用に親和性があり、劇的に生産性を上昇させられる可能性があると考えている。

○ワーク・ライフ・バランス

【河上委員】

令和4年度に県との包括連携協定を締結いただき、連携した取組を行っているが、東予地方局として、より一層の連携を図るため、「愛テクフォーラム」に入会させていただきたいと考えている。このフォーラムでの取組は、地域連携活動としてご説明のあった「ものづくり企業人材確保対策協議会」の参加企業（101社）においても更なるメリットが期待できるので、よろしくお願ひしたい。

貴校の強みとして、立地、多岐にわたる製造業、地域と連携した教育の充実とのご説明があった。行政としても、地域産業の活性化、優秀な人材の地元企業への確保の面から、貴校の取組に大いに期待。強みを更に生かした活動を進めていただきたい。

○教育支援者（技術職員）

【平田委員】

新居浜高専3期の卒業生です。本日のご報告やニュースなど国内外で高専の評判が非常に高いということを知り、卒業生としても非常に嬉しく思います。

高専とは何かと考えたとき、高等教育機関であると同時に実践的で高度な技術者を輩出するところと言えます。これが現実社会に適合する高い評価を得ているポイントだと思います。

そんな教育で重要な役を担っているのが技術職員の皆さんだと思います。技術の世界は日進月歩、非常に移り変わりが激しいもの。社会ニーズに適合した技術を取り入れる努力が研修等を通じてなされていることを高く評価いたします。

また、授業以外でも、学科を横断する形でロボコン、デザコン、エコラン、鳥人間などでも技術職員の方々が支えてくれているのだらうと思います。今後も技術職員間で情報交換や交流を横断的に続けていただきたいと考えます。

総評

【森脇委員】

それでは、各委員皆様から頂いたご意見をまとめて。総評として、私から代表して述べさせていただきます。

まず初めに、多様性が重要視される時代において、社会状況の急激な変化にも対応し、学生の学びを止めることなく支え続ける活動に対して、深い敬意を表します。

定員確保に関しては、さまざまな広報活動を実施された結果、少子化の中でも志願者を確保していること、女子学生の入学者数が全国平均よりも高く 32%となっていることは高く評価できます。

卒業・修了後の進路については、県内企業をはじめとする企業への就職や、大学・大学院への進学など、さまざまな進路が確保されていることが確認できます。高い就職率を維持していることも高く評価します。

留学生受け入れ、学生の海外派遣など、国際化にも力を入れていることは高く評価します。産業界との連携を深め、自己財源の強化に務められている。取組が進みますことを期待いたします。

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーが社会のニーズに即して適切に定められていることを評価します。

本科教育について、教学マネジメントの観点から、組織的に質保証の取組を継続し、モデルコアカリキュラムを包括したディプロマ・ポリシーを設定して、それに対応した特別科目を開講していることを高く評価します。

e-ポートフォリオの活用により、学生自身が活動や学びを可視化して、獲得した能力や成長内容を可視化し、自己評価できるようにしていることも高く評価できます。

FD 教員によるグループワークにより、3つのポリシーに基づいた教育、カリキュラムの点検、問題点の共有、それらが教育改善につながられていることは高く評価できます。

専攻科教育に関しては、入試方法も含めた学生の質保証の取組（TOEIC 350 点以上を出願要件に追加）など、国際教育と連動した、入試制度の改革が継続されていることを高く評価します。

また、起業教育（アントレプレナーシップ教育）の充実などが定着していることを評価します。

数理データサイエンス AI 教育プログラムが定着していることを評価します。

学生支援に関しては、充実した課外活動、キャリア教育、交通安全指導が展開されていることを高く評価します。

学生が文部科学大臣特別賞を受賞するなど、学生が楽しく挑戦し、輝かしい体験をする機会を設けられていることに心から敬意を評します。

多様で複雑な学生のメンタルヘルスのケア、社会とのつながりが多様化する中で、いじめ防止を含む学生の安全な生活の確保のため、様々な資格をもつ学外カウンセラーの雇用、ピ

アサポート体制と積極的に対処されていることを評価します。

学生寮に関しては、学生の生活及び安全を継続させるために交流会、短期留学生の受入れと交流、改修工事と様々な取組をされていることを評価します。女子学生が増えることへの対応及び予算措置への対応など、今後の継続的な取組に期待します。

高度技術教育研究センター、エンジニアリングデザイン教育センターに関しては、研究推進、地域連携、及び社会貢献活動の3本柱を確立され、継続的に成果を上げていることを評価します。地域連携活動においては自治体等との連携、学生による出前講座、新居浜市DX推進ラボへの協力など順調に市町への広がりをみせており、その成果が期待されます。国領祭「地域産業紹介ブース」が定着・展開されていること、加えて新たな展開として、企業、学生、教員をつなぐマッチングイベントも企画されています。それらの取組を高く評価するとともに今後の更なる展開に期待します。

愛テックフォーラムの会員数も着実に増加しており、地域産業への関心、理解を深める機会が創出されていることも高く評価します。

アントレプレナーシップ教育も強化されており、その成果が出始めていることを高く評価します。また起業挑戦活動支援として、工房に設備・備品を充実化させていることも、今後の成果に期待するとともに高く評価します。

エンジニアリングデザイン教育センターによる、教育研究、ものづくり課外活動、地域連携等への支援が精力的に行われていることを高く評価するとともに、今後のさらなる展開に期待します。

グローバル化に関しては、グローバル教育センターにおいて数値目標を掲げられ、その達成状況を点検されていることを評価します。キャンパス国際化のために外国人教員の雇用、English Caféにより留学生と日本人学生が楽しく英語で交流できる機会を提供していることも高く評価します。

海外研修は、単なる語学研修ではなく、専門研究やキャリアに向けた取組が始まっていること、グローバル×キャリア講演会を開催し、グローバルなキャリアアップに役立つ取組についても、今後の継続的な取組に期待します。

本科新入生の子女子学生の割合が全国トップクラスに増加していることを受け、令和7年度から「ダイバーシティ推進室」と名称を変更され積極的な取組を進めておられます。また、令和7年度には女性教授の登用比率が14.8%と上位5高専に入り、工学系の教育機関として女性の参画を積極的に推進している点が高く評価されます。

ダイバーシティ推進室により、男女共同参画だけでなく、多様な立場からの気づきを取りあげ、それを環境整備として実践するとともに、学生・教職員への意識啓発、ニーズ・実態把握を行なっていることを高く評価します。今後の継続的な取組に期待します。

ワーク・ライフ・バランスに関する各種制度の周知、その実現に向け更なる取組を進めていただくことを期待します。

点検評価に関して、高専機関別認証評価に加えて、毎年の自己点検・評価を行っているこ

とは高く評価されます。点検・評価体制と PDCA の位置付けが明確化されている点も PDCA の実質化に有用であり高く評価します。学生との懇談会、アンケートを行い学生の声を聞いていることも高く評価します。今後の継続的な取組に期待します。

以上をまとめますと、地域の要望に応えるための教育・研究体制が着実に構築され、新たな取組が積極的に行われており、その成果が地域からも高く評価されていると考えます。特に、女子学生の志願者数の増加や女性教授の登用、ダイバーシティ推進室の設立など、男女共同参画に関する取組が積極的に進められ、工学系教育機関としての先進的な姿勢が高く評価されます。

総じて、これらの取組が定着しており、今後の更なる発展が十分に期待できると考えます。では以上で総評を終わらせていただきます。会議の進行にご協力いただきましてありがとうございました。

【東海校長】

委員の皆様方、本当に今日はありがとうございました。多岐にわたるご指摘を頂戴できたかと思います。時間内で十分な回答ができていないところが多々ありましたけれども、そういう部分につきましては、今後、本校の活動を随時 HP 等で紹介してまいりますので、お時間あるときにでも参照していただければ幸いです。

冒頭で 15 歳人口が減少するなかでのことを申し上げましたけれども、その傾向は今後も続きます。そういう中で、数が減るのはしょうがないけれども、数ばかりに目が行き過ぎていっても、学校の運営上、無粋なところがあるのかということ、皆様のご指摘を通じて改めて感じた次第です。

より一層、私どもが学生一人一人の顔を見て、ちゃんと聞いて、それこそ五感を通じて学生を指導していくような育成していくような、そういうことが改めて求められているんだろうなということを感じた次第です。意外とそのデジタル化が進むようで、実はもっと違うレベルでアナログなところが大事になってきている時代ではなかろうかと、改めて思った次第です。

今後どのように高専を取り巻く境界条件が変化していくのかわかりませんが、少なくとも安定はしないような気がしております。激変していく境界条件の中でも、やはり高専を通じた育成される人材というのは、どこかで必ずや世の中を支えていく、そういったことができいくような仕事を、今後も我々続けていきたいなというふうに考えております。引き続き有形無形のご支援をいただければ幸いに存じます。本日は本当にどうもありがとうございました。

説 明 資 料

- 新居浜工業高等専門学校の概要
- 教育に関する事項
- 学生支援に関する事項
- 研究・地域連携、及び社会貢献活動に関する事項
- グローバル教育に関する事項
- ダイバーシティに関する事項
- 点検・評価に関する事項
- 第20回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応について

令和7年度運営諮問会議

1. 新居浜工業高等専門学校の概要

校長 東海明宏

国立高専機構 第5期（令和6年4月1日～令和11年3月31日までの5年間）

◆中期目標
15歳人口の減少という状況の下で、アドミッションポリシーを踏まえた多様かつ優れた入学者を確保し、5年一貫のゆとりある教育環境や寮生活を含めた豊かな人間関係の構築などを基礎として、専門的かつ実践的な知識と世界水準の技術を有し、自律的、協働的、創造的な姿勢でグローバルな視野を持ち、科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者を育成すること。

◆中期計画

1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置
2. 業務運営の効率化に関する事項
3. から7. 予算、人事等運営に関する重要事項

年度計画策定、次ページ

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 -

令和7年度国立高専機構 年度計画 ⇒ 令和7年度新居浜高専 年度計画

7領域、165項目にわたる

1. 新居浜工業高等専門学校の概要
2. R7年度の新たな取り組み

内容

- (1) 沿革等
- (2) 入学者の状況・広報活動
- (3) 入試の概要
- (4) 人材育成
- (5) オンキャンパスの国際化の状況・計画
- (6) 学校の現状と将来構想

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 -

(1) 沿革等 教育理念、基本方針、運営

昭和37年 高専制度1期校として設置(機械、電気、化学)
平成4年 専攻科設置
平成16年 (独)国立高専機構へ移行
令和7年 本科:機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、生物応用化学科、環境材料工学科
定員40名/学科×5学年=200名/学年、全校で1000名/5学年
専攻科(学士):生産工学専攻、生物応用化学専攻、電子工学専攻
定員20名/学年

教員:74名(女性9名(12%)、全学科・科に女性教員配置)
技術職員15名、事務職員40名

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 -

(1) 沿革等 教育理念、基本方針、運営

教育理念
知恵・行動力・信頼

教育の基本方針
学びと体験を通じて、
未来を切り開く知恵と行動力を持った
信頼される技術者を育てる

↓

新居浜高専3つの方針(ポリシー)
入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)
教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
卒業認定の方針(ディプロマ・ポリシー)

知恵・行動力・信頼

教育の基本方針

学びと体験を通じて、
未来を切り開く知恵と行動力を持った
信頼される技術者を育てる

教室・会議室等、各所に掲示

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 -


(1) 沿革等 教育理念、基本方針、運営

本科

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

さらに、専攻科の教育目標に次の事項を加える。

- 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。
- 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。



教室での掲示

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 -

(1) 沿革等 教育理念、基本方針、運営

本校での日常的自己点検

企画調整会議

運営会議(執行部)

教員会

教務委員会

寮務委員会

学生支援委員会

他、合計33

教学IR室によるデータ整理

各種調査:学生アンケート等

外部評価

新居浜高専:運営諮問会議

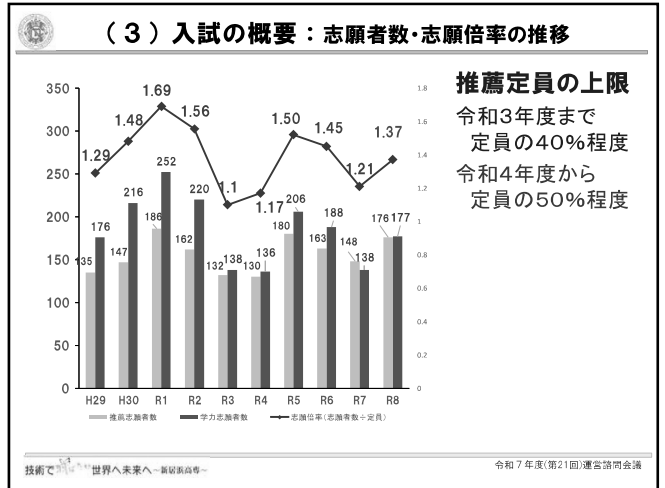
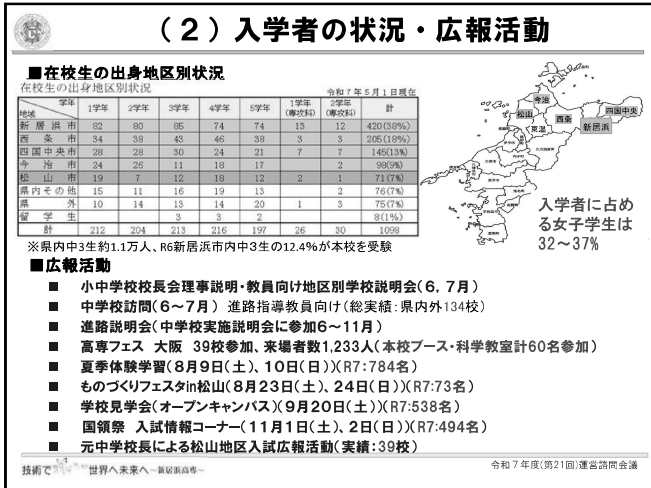
国立高専機構:監事監査

国立高専機構:機関別認証評価

国立高専教育国際標準

大学改革・学位授与機構:特例適用認定

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 -



(4) 人財育成 教育プログラム

就職 (6割就職、4割進学)

⇒大学院進学

- 専攻科：2年間
生産工学専攻
生物応用化学専攻
電子工学専攻
- 専攻科
■ 一般科目

⇒大学3年次編入

- 本科：5年間
機械工学科
電気情報工学科
電子制御工学科
生物応用化学学科
環境材料工学科
- 専攻科
■ 一般科目

学科・専攻横断的教育：
機構本部主導プロジェクト：KOSEN 4.0 イニシアチブ
GEARS.0 STEAM教育 COMPASS 5.0

- 特別課程
 - ・次世代プラント技術者育成特別課程
 - ・アシティブテクノロジー技術者養成特別課程
 - ・人工知能活用人材特別課程
 - ・宇宙システム利活用人材育成用特別課程(R8~)
- COMPASS 5.0 蓄電池拠点校として研究通じた教育の拠点校
- 課題演習：技能審査・資格試験の単位認定
- ・デジタル技術検定、電気主任技術者、公害防止管理者、環境社会検定、他多数。

◎アントレプレナーシップ教育

△高専機構主催コンテスト：ロボコン、他

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 - 令和7年度(第21回)運営諮問会議

(4) 人財育成 研究活動

キャンパスベン
チャレンジグランプリ
四国 特別賞

教員の研究シーズ集定期刊行
●企業、共同研究開拓
●今後は、中学校へ志望者拡大

アメリカ・コロムバス
で5月に開催された、「リジェネロン国際学生科学技術フェア(Regeneration ISEF)2025」に日本代表として参加し「文部科学大臣特別賞」

新居浜高専
研究シリーズ集-17

産学連携
共創研究

産学連携
共創研究

産学連携
共創研究

新居浜工業高等専門学校

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 - 令和7年度(第21回)運営諮問会議

(4) 人財育成 高専卒人材の活躍

日刊工業新聞
KOSEN 最前線 2025

高専全体として 新居浜高専(R7)

- 社会に有為な人材継続的輩出
 - 求人倍率
本科生 25.5
専攻科生 81.2
- 教育システムの変革・牽引役
 - 進学者 59名
本科生 55名
専攻科生 4名
- 世界に高専の教育システム広がりがアジア、アフリカ
 - 就職内定 県外 110/131
- 企業との教育連携の動き(Panasonic 地元企業、他)
 - 台湾・雲林科技大学進学希望2名(奨学金提供)

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 - 令和7年度(第21回)運営諮問会議

(5) オンキャンパスの国際化の状況

- 長期国費等留学生受入状況(1985年から総計115名)
 - R6 8名(マレーシア、カンボジア、ラオス、タイ、インドネシア)
 - R7 8名(ラオス、タイ、インドネシア、ミャンマー、モンゴル)
- タイ高専関係
 - KMITL教員派遣 R2.4~R4.3 機械系教授
 - KMITL短期研修受入 R6.10 機械・制御3年生1クラス22名
 - KMITL1週間研修受入R7.4.21~4.24 1~4年生計9名
- R7短期留学生・教員受入
 - 【学生】前期(台湾)国立聯合大学4名、文藻外語大学2名、(タイ)タマサート大学1名
 - 【教員】(台湾)国立雲林科技大学3名(グローバル×キャリア講演会を開催)
 - ※後期も国立聯合大学をはじめ、受入予定
- R7学生海外派遣
 - トビタテ留学1名(イギリス)、国立聯合大学IS2名、文藻外語大学中国語研修11名
 - 外国立雲林科技大学サマーキャンプ、タイ高専訪問、語学研修、短期留学等予定あわせて50名を超える。
 - ※派遣以外に、文藻外語大学とのオンライン国際交流も実施

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 - 令和7年度(第21回)運営諮問会議



(6) 学校の現状と将来構想 その1

■ 本校の強み

- ・立地（愛媛県東予地域は四国最大の工業地帯）
- ・多岐にわたる製造業 → 高い求人数
- ・東予地区高等教育機関は本校のみ → 専門学科教員博士取得率98%
- ・地域社会と連携した教育の充実（特徴的な教育課程設置）

■ 本校の弱み

- ・研究活動の強化
- ・外部資金獲得の上積み
- ・グローバルマインド育成



- ・全専門教員が特例認定を目指す
- ・科研費等申請促進
- ・リベラルアーツ講義新設

■ 経営の課題

- ・入学志願者数の確保 → 学校全体の最重要課題として意識付け
- ・業務の削減と効率化 → 校長トップダウンで対応中
- ・危機管理体制 → 重大案件と疑われた段階で機構本部へ連絡をすることを基本。对学生案件は相談室、看護師、カウンセラーとも共同体制で対処。



(6) 学校の将来構想 その2

■地域の人口が縮小傾向にある中で、本校の関係人口に対象拡大、留学生を含め、かつ立地を生かした入学生の確保すること。

■人材育成を産業界とともに進めてゆくこと。新居浜高専技術振興協会のご支援のもと企業等との新居浜高専との共同研究のさらなる推進、学園祭で「地域産業紹介ブースの設置」、住友グループをはじめとする地元企業との更なる連携活動を推進すること。

■施設等の経年劣化を踏まえた長期にわたる更新計画を策定すること。

■変わりゆく学習指導要領、産業界のニーズの変容、教員の世代交代が進む中で、「高専ならではの」人材育成の活かし方のさらなる模索・展開。1年生で研究に参画できること、じっくり学び、将来の選択ができること。これを支える教職員の支援システムを整備すること。

■各種関係団体と連携協定のもと教育共同研究の継続・推進をはかること。愛媛県、新居浜市、宇和島市、鬼北町、伊予銀行、愛媛大学、西条高校、えひめ東予産業創造センター、松山リハビリテーション病院、他高専等。



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～



(1) 教育に関する事項

教務主事 加藤克巳



本科教育に関する報告

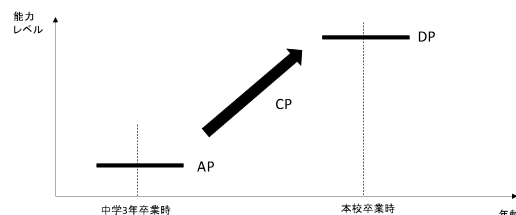
- * 本校(本科)の3つのポリシー
- * 教育改善のためのFD活動



3つのポリシー

本校の3つのポリシー(別添資料1)

- ディプロマポリシー(DP):卒業認定の方針
- カリキュラムポリシー(CP):教育課程編成・実施の方針
- アドミッションポリシー(AP):学生受入の方針



3つのポリシー

3つのポリシーと教育改善(内部質保証)の関係

「三つのポリシー」に基づく大学教育改革の実現(イメージ)(案) 資料2-2

三つのポリシーの一元的な認定による、選抜、教育、卒業の各段階における目標の具体化

DP ポリシールの記述
大学の理念や社会の実情等を踏まえ、学生が身に付けるべき資質・能力の明確化

CP DPを踏まえた教育課程構成、教育内容の具体的な明確化

AP DP、CPの内容・内容を踏まえ、各課大学に適合する学生の入学方針の明確化

三つのポリシーに基づいて体系的で継続的な教育の実現をめぐる「三つのPDCAサイクル」(図説)

体系的で継続的な教育の実現をめぐる「三つのPDCAサイクル」(図説)

三つのポリシーに関する大学の取組の評価(①の自己点検・評価)

自己点検・評価に基づく大学教育の改善(案)

三つのポリシーに基づいて体系的で継続的な教育の実現

学生の学習成果と目標

三つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン (各専修大学教育研究センター大学教育委員会)

審判改正 ① 三つのポリシーの策定・改訂の具休化 審判改正 ② 三つのポリシーに基づく大学教育に対する基礎課程科目の追加(学校設置委員の検討)

参照URL: https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/gijiroku/_icsfiles/afidfile/2016/01/25/1366190_04.pdf

技術で「世界へ未来へ」新設奨励会 令和7年度(第21回)運営諮問会議

3つのポリシー

■ ディプロマポリシー(DP)

ディプロマポリシー(DP) = 卒業認定の方針

各学科毎に「教育上の目的」と「身につける能力」を明示し、これを達成した学生の卒業を認定する

(身につける能力)

- A. 工学基礎知識 数学・物理・化学など
- B. 専門知識 各学科の専門科目・実験実習など
- C. 問題解決能力 各学科のPBL科目・卒業研究など
- D. 教養 国語・社会・保健体育など
- E. コミュニケーション能力 国語・英語・英会話など
- F. 社会性 リベラルアーツ演習・インターンシップなど

それぞれの「身につける能力」を担保する必修得科目を配置することによりDPを達成できるようにカリキュラムを編成 ⇨ カリキュラムポリシー(CP)

技術で「世界へ未来へ」新設奨励会 令和7年度(第21回)運営諮問会議

3つのポリシー

■ カリキュラムポリシー(CP)と科目の流れ

学科ごとに「科目の流れ」を示し、体系的な学びにつなげる(別添資料2参照)

技術で「世界へ未来へ」新設奨励会 令和7年度(第21回)運営諮問会議

3つのポリシー

■ モデルコアカリキュラム(MCC)

すべての学生が卒業までに習得すべき最低限の目標水準をモデルコアカリキュラム(MCC)として高専機構が提示(全国国立高専共通)

- ・コア=知識・技能を中心に特定分野の科目で達成させる目標
例:(数学)変数分離形の微分方程式を解くことができる。
- ・モデル=特定の科目に限定されず、多様な教育方法で達成させる目標
例:(創造性)多角的な視点から事象を分析し、対応すべき問題を定義できる。

高専機構から「MCCを包含したDP」を設定することが求められている

令和7年度入学から適用できるようにカリキュラム変更を実施

- ・適切な必修得科目の配置
- ・科目の整理(廃止・新設・分割、学修単位化、自由選択科目化)

技術で「世界へ未来へ」新設奨励会 令和7年度(第21回)運営諮問会議

3つのポリシー

■ MCC到達目標の全体構成(参考)

MCC到達目標の全体構成

MCC(モデル): 創造性・デザイン能力
創造性 エンジニアリングデザイン能力

MCC(モデル): 基礎的資質・能力
汎用的技能: チームワークとリーダーシップ、コミュニケーションスキル、情報保護・活用・セキュリティ、思考力、課題発見・問題解決力

MCC(コア): (知識・技能)
基礎的能力: 数学、自然科学、人文・社会科学、工学基礎
分野別専門能力: 分野別専門工学、分野別実験実習能力

態度・志向性
自己理解、主体性、自己管理と責任ある行動、倫理観、キャリアデザイン、継続的な学習と学びの目的

MCC(モデル): 創造性・デザイン能力
各高専は「MCC(モデル): 創造性・デザイン能力」を包含したディプロマポリシー達成に向けて、専門科目等でPBL、社会実装教育、COOP教育、地域協働など問題解決・課題達成を目標とする授業設計をおこなう。
※「知識・技能」と組み合わせ「創造性・デザイン能力」育成を図る際の学習目標、学習成果測定・評価指標を定義する際の指針とする。

MCC(コア)
一般科目、専門科目との対応関係が比較的設定しやすい「知識・技能」を中心とした学習内容を規定している。

MCC(モデル): 基礎的資質・能力
「MCC(モデル): 基礎的資質・能力」を含む各高専のディプロマポリシー達成に向けた一般科目、専門科目の授業設計をおこなう際に、「MCC(コア)」の「知識・技能」と組み合わせ学習目標、学習成果測定・評価指標を定義する際の指針とする。

技術で「世界へ未来へ」新設奨励会 令和7年度(第21回)運営諮問会議

3つのポリシー

■ カリキュラムとDP、MCCの関係

DP非関連科目(特別課程等)

DP関連科目

モデルコアカリキュラム(MCC)関連科目

本校の開講科目

技術で「世界へ未来へ」新設奨励会 令和7年度(第21回)運営諮問会議



3つのポリシー

■ アドミッションポリシー(AP)

アドミッションポリシー(DP) = 学生受入の方針

教育目標を達成できる資質を備えている学生の受入の方針、選抜の方針(求める人材像)

- * 理科や数学が好きで、将来技術者になりたいと考えている人
- * 物を作ったり、実験したりすることが好きな人
- * 中学校の学習内容を身につけている人
- * 目標の実現に向かって絶えず工夫し、着実に努力できる人
- * ルールや約束を守ることができ、協調性や思いやりのある人(他、各学科毎の人材像を設定)

推薦選抜: 調査書等の提出書類、目的意識、学習意欲、適性等に関する面接と口頭試問

学力選抜: 必要な素養と基礎学力を有している人を選抜、調査書と学力試験(学力は数理200点、国英社100点)



3つのポリシー

e-ポートフォリオの活用

- 自己申告書(全学生)

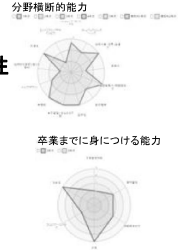
学生自身が活動や学びを記録
R4から電子化(以前は紙で実施)

- 分野横断的能力の自己点検(全学生)

コミュニケーション力、問題解決力、創造性
など13項目を自己評価(R5末から)

- DPの達成度の自己点検(3, 5年生)

DPIに掲げた身につける能力6項目を自己
評価(R5末から)



FD関係

■ 教育に関するグループワーク(R7年度実施)

本校の3つのポリシー(特にDP)に基づいた教育改善、カリキュラム改善について、グループワーク形式で実施

- 専門基礎科目と専門科目のつながり、一般科目の在り方など
- 科目間の内容のつながり、担当以外の科目の意識など
- 10グループで実施

■ 科目間調整連絡会(年1回実施)

専門基礎科目(数学、物理、化学、英語)について一般教養科・数理科教員と専門学科教員との連携をとるための意見交換会。

- 各教科での取り組みや問題点の共有ができた
- 専門基礎科目と専門科目のつながりを学生にも伝えてモチベーションを高めることが重要



FD関係

■ 教員会FD報告(定期的に実施)

CBT(数学・物理) 全国高専の教員が作成した択一問題テスト

TOEIC IP (国際コミュニケーション英語能力テスト)

年度ごとの変化や学科別の特徴などを分析

教育改善報告(年1回)

令和7年度は2月24日電気情報工学科

意見交換を通してさまざまな科目の教育改善につなげる

■ SPOD研修(年1回実施)

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」による研修

R7年度「学生の文章力をいかに高めるかーライティング指導を改善する」

愛媛大学 上月 翔太 先生



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～



専攻科教育に関する取り組み

■ 入試改革

- ◇ 出願要件に、TOEIC350点以上 を追加
(R9年度専攻科入試より推薦、学力ともに)



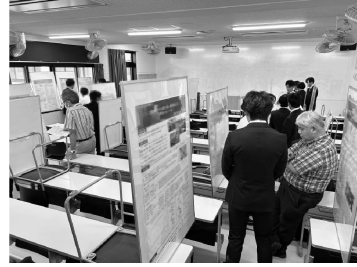
専攻科教育に関する取り組み

- アントレプレナーシップ教育について
 - ◇専攻科1年生(全専攻共通)
 - 「ベンチャービジネス概論」「起業工学」にて、伊予銀行と連携することで全国の経営者、現役起業家による講話を実現
- 学生の活躍
 - ◇日台国際カンファレンスにて17名英語発表
 - ◇IEEE ICCE-TW 2025にてSE4名論文発表
 - ◇SE学生グループ「第7回電気工学教材企画コンテスト」最優秀賞



専攻科教育に関する取り組み

- シニア・インターンシップについて
 - ◇学びの特別研究、学内活動への接続を重視
 - ◇全専攻合同の報告会を実施



専攻科教育に関する今後の取り組み

- ディプロマポリシー、カリキュラムの検討
 - ◇社会ニーズに対応したDPの見直し
 - ◇社会ニーズに対応したカリキュラム改善
 - ◇教員定員減に対応した授業等の業務改善
- 対外発表の促進
 - ◇国際会議発表を含めた、対外発表の促進
- 入試改革
 - ◇アドミッションポリシーをより重視した入試の改善



技術で 世界へ未来へ
～新居浜高専～



情報教育センター

令和7年度 活動報告

情報教育センター長 占部 弘治



情報教育センターの主な業務

- 情報教育
 - ・情報セキュリティ
 - ・数理データサイエンスAI教育プログラム
- BYODによる学生のPC必携による教育の推進
- ネットワークの運用管理
 - ・インターネットへの接続
 - ・校内ネットワーク(無線LAN、学寮を含む)
 - ・Webサーバー、メールサーバー
- 教育用電子計算機システム(演習室PC)の運用管理
- 情報セキュリティに関する業務
 - 予防 / 訓練 / インシデント対応



令和7年度の取り組み

- 情報教育（セキュリティ・数理データサイエンスAI）
 - ・数理データサイエンス AI教育プログラム「応用基礎レベル」を申請し、認定（令和11年度まで）
「リテラシーレベル」は令和4年度に認定
 - ・SEC道後2026 サテライト参加（2/27～2/29）
- BYODによる学生のPC必携による教育の推進
 - ・令和7年度入学新1年生より BYOD によるPC必携を実施

技術で世界へ未来へ～新居浜高専～

令和7年度(第21回)運営諮問会議



令和7年度の取り組み

- 教育用電子計算機システム（演習室PC）の更新
 - ・令和8年9月に更新予定（現在 入札中）
 - ・学生のPC必携に伴い、PC設置演習室を削減を計画
PC設置演習室数 5 → 3 へ
PCを設置しない演習室
電源・有線LAN・ディスプレイを設置し、
学生PCを活用できるBYODルームへ
- ネットワークの運用管理
 - ・令和9年に校内ネットワークの更新予定（国立高専機構一括）

技術で世界へ未来へ～新居浜高専～

令和7年度(第21回)運営諮問会議



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～



技術で世界へ未来へ～新居浜高専～

令和7年度(第21回)運営諮問会議



(2) 学生支援に関する事項

学生主事・保健管理センター長 志賀 信哉
寮務主事 白井 みゆき

技術で世界へ未来へ～新居浜高専～

令和7年度(第21回)運営諮問会議



課外活動 体育系

四国地区高専体育大会

日程：2025(R7)年7月



陸上競技



剣道

【全国大会出場】

水泳部(全国優勝)、陸上、バレーボール男子、ソフトテニス
バスケットボール女子、バドミントン女子、剣道、弓道

技術で世界へ未来へ～新居浜高専～

令和7年度(第21回)運営諮問会議



課外活動 文化系

① 四国地区高専総合文化祭

日程：2025(R7)年12月19日(金)
場所：ハイスタッフホール他(観音寺)

② 高専ソコチカラ夏・春

日程：2025(R7)年06月28日(土)
2026(R8)年02月28日(土)
場所：あかがねミュージアム(新居浜)



吹奏楽部



奇術部



書道部



ダンス愛好会

技術で世界へ未来へ～新居浜高専～

令和7年度(第21回)運営諮問会議

キャリア教育

学外研修

日程: 2025(R7)年5月
対象: 1~4年生

令和7年度(第21回)運営諮問会議

キャリア教育

企業セミナー

日程: 2025(R7)年12月9日(火)
企業数: 午前79社・午後76社=155社
対象学生: 4年生・専攻科1年生+他学年(R7年度から)

令和7年度(第21回)運営諮問会議

交通安全指導

二輪車安全運転講習

日程: 2025(R7)年11月14日
対象: 2年生

交通安全指導

重大な交通事故はゼロ
※2026(R8)年2月8日現在

令和7年度(第21回)運営諮問会議

国領祭(学園祭)

国領祭

日程: 2025(R7)年11月1日(土), 2日(日)

※R6食中毒疑い発生 → R7出店の安全衛生管理を徹底

令和7年度(第21回)運営諮問会議

学生の活躍

- 文部科学大臣特別賞
→ 高校生・高専生科学技術チャレンジで上位入賞
→ リジェネロン国際学生科学技術フェア2025(於アメリカ) 日本代表メンバー選出
- Hondaエコマイレージチャレンジ2025
→ GⅢ部門 3位(12チーム中)
- 高校生クイズ2025(日本テレビ)
→ 四国予選通過 2年連続全国大会出場
- 善行賞(新居浜市教育委員会)
→ 奇術部2名 → 高齢者福祉施設等の訪問

令和7年度(第21回)運営諮問会議

保健管理センター

保健管理センター

保健室
Health Room

メンタルヘルス教育推進室
Mental Health Education Promotion Room

学生相談室
Student Consultation Room

特別支援教育推進室
Special Support Education Promotion Room

学生保健室との情報共有関係


令和7年度(第21回)運営諮問会議



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
 ～新居浜高専～




技術で「世界へ未来へ」～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議



(3) 研究・地域連携、及び
社会貢献活動に関する事項

高度技術教育研究センター長 **高見 静香**
研究推進部門長 **松友 真哉**
地域連携部門長 **喜多 晃久**
高度教育部門長 **三井 正**
副校長(改革担当) **衣笠 巧**
エンジニアリングデザイン教育センター長 **吉川 貴士**


技術で「世界へ未来へ」～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議



1. 研究推進活動

- ・愛媛大学工学部との共同研究(連携研究促進経費 採択4件)
研究交流会・意見交換会(3月開催予定 於:愛媛大学)
- ・企業との共同研究・受託研究(R7.12.25時点)
新規8件+継続12件=20件(新居浜市内4件)
- ・科研費採択
新規5件+継続15件=20件
学内セミナーの実施
機構本部の査読者ネットワークの活用


技術で「世界へ未来へ」～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議



1. 研究推進活動

- ・高専シーズの広報
ResearchMap情報の更新および年間業績報告の刊行(Web公開)
新居浜高専研究シーズ集17の刊行(冊子+Web公開)
新居浜市役所口ピー展示[10/14~17]
新居浜高専工業技術懇談会[8/27]
- ・教員・学生の研究表彰等
 - ・「ブレークスルー賞」米ゲーグルの創業者らが出資するブレークスルー財団 [電気情報工学科 教員]
 - ・文部科学大臣特別賞 受賞 [環境材料工学科 4年生]
 - ・学生ビジネスプランコンテスト「M-BIP」 入選 [電子工学専攻 1年生]
 - ・第23回キャンパスベンチャーグランプリ四国大会 特別賞 受賞 [生物応用化学科 5年生]
 - ・電気学会全国大会 優秀論文発表賞 受賞 [電子工学専攻 2年生]

技術で「世界へ未来へ」～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議



1. 研究推進活動


- ・共同研究実績(R7年度) 敬称略、機関名、研究題目公表可の共同研究のみ

機関名	研究題目
(株)ミカンワークス	3次元バーチャル空間における高速・高精細描画手法の開発
リケンテクス(株)	光触媒効果を有する高機能磁石を用いた汚水浄化システムの開発
関西化工(株)	有機物処理能力を有するろ材付着微生物群の解析と単離
大塚化学(株)	ロボット製作における3Dプリンティング技術の応用に関する研究
日本バーカライジング(株)	変化系熱処理を施した鋼の微細組織構造の解明
滋賀県立大学	多価イオンビーム計測方法の検証
広島大学	VR技術と高速画像処理を活用したリアルタイム可視化システムの開発
法政大学	磁界の計測と数値解析および可視化に関する研究
- ・受託研究実績(R7年度) 敬称略
ピクセルソフトウェア株式会社
「新居浜市新製品・新技術開発支援事業」[新規測定システム構築による品質管理・保障と生産性の向上]における監視プログラム(故障予知機能)の作製]

(検附中)共同研究等の実績の公表について

共同研究/受託研究の申込時において、「研究題目」、「機関名」の公表可[※]と回答いただいた場合に本校HPで公表する予定。
[※]申請書に記載のチェックリストにおいて、公表不可にチェックが入っていない。

技術で「世界へ未来へ」～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議



1. 研究推進活動

- ・外部資金受入状況(令和7年度見込み)2026.2.19時点

種別	件数 ^{※1}	金額
科学研究費	19	20,851,518 円
科学研究費(分担金)	1	260,000 円
共同研究費	14	18,611,480 円
受託研究費	1	— 円
受託事業費	3	12,498,036 円
寄附金	29	10,980,048 円
その他補助金等	7	8,620,000 円

^{※1} 令和7年度受入金額と件数を示しているため、現在実施中の科研費事業や共同研究等の件数とは異なります。
 (例えば、現在実施中で前年度以前に契約・入金いただいている共同研究等は上記に含まれておりません。)
^{※2} 現時点で受託研究は1件を見込んでおり、金額の公表について許可を得ていませんので、「—」としております。

技術で「世界へ未来へ」～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議

2. 地域連携活動

学生の活躍！

鬼北町出前講座

学生による講演

令和7年度(第21回)運営諮問会議

2. 地域連携活動

新たな地域連携モデルの構築

国領祭「地域産業紹介ブース」の実施と、持続的展開

愛テク・地域連携活動の新たな展開

地域産業紹介ブース

令和7年度(第21回)運営諮問会議

2. 地域連携活動

愛テクフォーラム(新居浜高専技術振興協力会)

＜法人会員数の推移＞

H17(設立時)	48社
H20	50社
H23	42社
H26	39社
H29	44社
R02	57社
R05	65社
R06	80社
R07	88社
R08	90社

新居浜高専技術振興協力会「愛テクフォーラム」

・R8年1月には設立時(48社)の約2倍に相当する90社が参加

令和7年度(第21回)運営諮問会議

3. 高度教育活動

- 出前講座
 - R7.8.6-9.7 学生主体型の出前授業を実施
- 日本弁理士会 学生向け知的財産セミナー
 - 3年3学科(M,E,D科)で実施
- スタートアップ教育用機器の活用
 - ネットで予約、使用簿で管理
 - 3Dプリンタ、ガスクロマトグラフ質量分析計の利用が多い
- えひめ半導体産業ネットワーク(R7年3月設立)に参画
 - 半導体人材育成講座
 - 基礎講座 3名、実践講座 2名の受講
 - R8年度以降に本校での開催も検討

令和7年度(第21回)運営諮問会議

3. 高度教育活動

特別課程

- 次世代型プラント技術者育成特別課程(PE課程)
 - 4年生 6名、5年生 3名(R7年度)
- アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程(AT課程)
 - 4年生 17名、5年生 6名(R7年度)
- 人工知能活用人材育成特別課程(AI課程)
 - 基礎 6名 (R7年度)
- 宇宙システム利活用人材育成特別課程
 - R8年度より、全学年対象で実施予定

令和7年度(第21回)運営諮問会議

3. 高度教育活動

Kc-BATT 電池人材育成事業 拠点校としての活動

令和7年度の主な取組事例

関西蓄電池人材育成等コンソーシアムとの連携(教材開発)

- Step1教材: バッテリーに興味関心を持ってもらう
- Step2教材: バッテリーについて専門的に学ぶ(12テーマの教材)

分野	テーマ
共通	1. リサイクル
	2. 全固体電池
	3. ラミネート電池
化学・物質(材料)	4. LIB正負極反応
	5. 粉体流動性と安息角
	6. 安全性(シャットダウン特性とマルチダウン特性)
	7. 分析
機械	8. 材料強度
	9. 応力とひずみ
電気・制御	10. 安全性(過充電・過放電)
	11. 電力変換
	12. エネルギー密度

ワンフレーズ集:用語解説集(R7年度中に完成)

令和7年度(第21回)運営諮問会議

3. 高度教育活動

産学官連携

- ・ プライムプラネットエナジー&ソリューションズ(株)姫路工場見学 (3年生68名、専攻科1年2名)



- ・ 『えひめEVサーキュラーエコノミー推進協議会』に参画
- ・ 『バッテリー先進人材普及ネットワーク(BATON)』に参画

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 - 令和7年度(第21回)運営諮問会議

3. 高度教育活動

イベントなど

- ・ 『COMPASS5.0蓄電池分野とGEAR5.0防災・減災(エネルギー)分野 合同スプリングスクールin新居浜』開催
→ 『関西バッテリーだより-DENCHY-』に掲載
- ・ 『COMPASS5.0蓄電池分野サマースクールin新居浜』を開催
→ 朝日新聞、愛媛新聞に掲載、ハートネットワークで放送
- ・ 『COMPASS5.0 サマースクール 2025(熊本)』に参加
- ・ タイ高専(KOSEN-KMITL)からの短期研修生に電池製作実習を実施
- ・ 夏期体験学習で中学生に電池製作実習を実施
- ・ 国公立高専合同説明会(KOSEN FES 2025)にてバッテリー実習実施
- ・ COMPASS5.0蓄電池分野教員向け研修会を開催

広報活動

- ・ パネル展示: 新居浜市役所ロビー展、東予ものづくり祭2025
- ・ 各種学会等で、講演、教材紹介など

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 - 令和7年度(第21回)運営諮問会議

イノベーションを創出する アントレプレナーシップ教育強化事業


1. アントレプレナーシップの育成

1-1. 授業によるアントレプレナーシップ教育の実施

- ・ 講義 「経営工学」(本科5年)、「ベンチャービジネス概論」(専攻科1年)、「起業工学」(専攻科1年)、「知的財産」(5C)
- ・ 実験実習 「情報工学実験」(5E)、「創造化学実験」(4C)
- ・ 特別課程 「アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程」(本科4, 5年)、「次世代型プラント技術者育成特別課程」(本科4, 5年)
※外部講師による授業(常勤教員の授業でも実施しているが未整理)

1-2. 講演によるアントレプレナーシップの涵養

- ・ AI×ノーコードセミナー(本校卒業生起業家)(新居浜市DX推進ラボとの共同、全学年定員20名)
- ・ アントレプレナー推進大使による講演(本科2年)



技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 - 令和7年度(第21回)運営諮問会議

イノベーションを創出する アントレプレナーシップ教育強化事業

2. 学生の起業挑戦活動支援

2-1. 起業家工房

- ・ 設備・備品の設置
ガスクロマトグラフ質量分析計 1台、3次元プリンター 4台
卓上型3次元スキャナ 1台、ハンディ型3次元スキャナ 4台
レーザーマーカ 1台、VRセット 6台 など
- ・ 3次元プリンター講習会への参加

2-2. 起業挑戦研究会

- ・ 2件のテーマを採択

2-3. 新居浜高専スタートアップコンペティション

- ・ 7件のプレゼンテーション(2月19日)

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 - 令和7年度(第21回)運営諮問会議

エンジニアリングデザイン教育センター

- ・ センター員(教員) : 8名
- ・ 技術室(技術職員) : 14名

ものづくり
工房

あかがね
工房

アイデア通り
工房

主な業務

- ・ 各学科の実験・実習及び卒業研究等の教育研究支援に関すること
- ・ ものづくり課外活動の支援に関すること
- ・ 地域連携による技術交流・支援に関すること
- ・ 機械及び材料実習工場の管理・運営に関すること
- ・ アイデア通り工房の管理・運営に関すること
- ・ 技術室の業務目標・計画及び評価に関すること
- ・ 技術室職員の研修計画に関すること
- ・ その他ものづくり教育及び地域等との技術交流の推進に関すること

技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 - 令和7年度(第21回)運営諮問会議

エンジニアリングデザイン教育センター

1) ものづくり支援

- ・ 卒業研究・特別研究支援
- ・ 国領祭科展示支援について
- ・ 学生への基板加工機の使用方の講習

2) 広報支援


- ・ 東予ものづくり祭inイオンモール新居浜 R7.11.7-16
- ・ 職場体験ミュージアム(新居浜市商工会議所) R8.2.22

3) 資格取得など

- ・ 第1種作業環境測定士(特定化学物質・有機溶剤) : 取得

4) 研修

- ・ 令和7年度中国四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会 共催
- ・ 令和7年度後期発達支援スキルアップ講座
- ・ 令和7年度KOSENフォーラムにて発表
- ・ 令和7年度四国地区国立高専技術職員研修 主幹・講演
- ・ 科研費(奨励研究) 採択
- ・ 精密工学会秋期大会 発表



技術で世界へ未来へ - 新居浜高専 - 令和7年度(第21回)運営諮問会議



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
 ～新居浜高専～



技術で「羽ばたけ」世界へ未来へ～新居浜高専～
令和7年度(第21回)運営諮問会議




(4)グローバル教育に関する事項



外国人留学生母国紹介・交流会の様子 (R7.6.27)

グローバル教育センター長 白井みゆき

技術で「羽ばたけ」世界へ未来へ～新居浜高専～
令和7年度(第21回)運営諮問会議




数値目標達成状況

新居浜高専の国際交流に関する数値目標
※令和2年度の運営諮問会議の提言を受けて令和3年度に設定
(令和8年度までの到達目標⇒残された時間は1年間)

- ① **TOEICスコア 卒業時平均400点 → ×**
令和7年度 5年生平均点の推移
 325点 令和3年度 296点
 令和4年度 339点
 令和5年度 354点
 令和6年度 353点
- ② **派遣・留学人数 50名 → ○**
令和6年度：69名、令和7年度：渡航済35名+予定26名程度
- ③ **短期実習生受入人数 10名 → ○**
令和6年度：40名、令和7年度：24名(予定)
 台湾・タイ・インドネシア

技術で「羽ばたけ」世界へ未来へ～新居浜高専～
令和7年度(第21回)運営諮問会議




今年度の取組

【今年度の取組:キャンパス国際化】

- ・ **外国人の活用**
外国人教員雇用(マレーシア人教員、元新居浜市国際交流員)
 協定校からの短期実習生受入(中国語教育実習・英語教育実習・専門実習)
 ※他高専とコンソーシアムを組んで、実習生に奨学金(JASSO協定受入)を支給し、
 受入数増加につなげる。
- ・ **学生のグローバルマインド・国際的コミュニケーション能力の育成とキャリアアップ**
オンライン英会話 DMM英会話 21名の学生が受講(前年度からの継続者も)
 オンライン国際交流(文兼外語大学日本語学科と日本語で交流)
 グローバル×キャリア講演会(外国人が講演、計3回実施)
 国際交流ボランティアクラブ(IEC)の養成(訪問学生の生活サポート)
 1年生リベラルアーツ演習(SDGs、アクティブラーニング)
 English Caf (留学生・短期実習生と日本人学生が楽しく英語で会話、10月～/月1回)

技術で「羽ばたけ」世界へ未来へ～新居浜高専～
令和7年度(第21回)運営諮問会議



今年度の取組

【今年度実施・予定の海外研修】

研修	派遣先	日程	種別	対象学年	募集人数	必要経費	参加人数
文彦外語大学中国語研修	台湾・高雄	2025年9月24日～9月28日	語学研修	全学年	10名	20万円	10名
タイ農畜短期研修旅行	タイ・バンコク	2025年9月1日～9月8日	短期研修旅行	全学年	10名	20万円	2名
国立聯合大学専門研修	台湾・苗栗	2025年9月13日～9月21日	インターンシップ	本科3年以上	5名	25万円	2名
雲林科技大学サマーキャンプ	台湾・雲林	2025年8月16日～8月21日	インターンシップ	本科3年以上	15名	15万円	6名
国立聯合大学専門研修	台湾・苗栗	2026年3月1日～3月29日	インターンシップ	本科3年以上	2名	20万円	0名
フィリピン・セブ英語研修	フィリピン・セブ	夏休み中・春休み中(2週間)	語学研修	全学年	期間なし	30万円	8名
韓国大邱英法村英語研修	韓国・大邱	2026年3月9日～3月23日	語学研修	全学年	15名	22万円	13名
サザンクロス大学英語研修	オーストラリア	2026年3月中、2週間程度	語学研修	全学年	15名以上	60万円	4名
ドイツ語学研修	ドイツ・ミュンヘン	2026年3月中、1か月程度	語学研修	4年以上 (ドイツ語必修者)	期間なし	45万円	7名
重慶工業職業技術学院研修	中国・重慶/上海	2026年3月中、1週間程度	短期研修旅行	全学年	10名	15万円	中止

他にトビタテ留学JAPANや外部エージェント、国際学会などを加算して60名以上が海外へ

★海外研修は語学研修だけでなく、専門研究・キャリアに向けた研修を

技術で「羽ばたけ」世界へ未来へ～新居浜高専～
令和7年度(第21回)運営諮問会議



今年度の取組:グローバル×専門×キャリア

海外での専門研究とキャリアアップ

【8/13-9/21】国立聯合大学(台湾)専門研修

2名の本校学生が自らの専門に近い研究室に配属され、専門の実習・実験を行いました。中国語のレッスンや文化体験、企業見学もあり、現地の大学生と交流しながら、研究・モノづくりを行いました。



【9/1-8】KOSEN-KMIT(タイ高専)で実験・実習

2名の本校学生がタイ高専で実験・実習などの実習に参加。授業は英語で大変でしたが、タイの学生の手助けで乗りこえました。またタイの学生が日本語を学ぶ姿に刺激を受けました。



【8/16-21】雲林科技大学×TSMC半導体人材育成91-1研修

6名の本校学生が台湾雲林科技大学でサマーキャンプに参加。英語や中国語による授業や実験の体験をしたほか、企業見学も行いました。台湾の新聞でも取り上げられ、有意義な体験となりました。



【7/19-20】第8回NIT-NUU日台国際カンファレンスIn高知

台湾国立聯合大学と中国四地区高専で毎年開催(開催場所は、台湾と日本で交互)。今年度は、高知で開催され、新居浜高専から教職員7名、学生17名が参加し、台湾の学生も交えて、英語で研究発表しました。



**次年度の日台国際カンファレンスは台湾国立聯合大学で開催予定
 ⇒研究発表の場として、より多くの学生が参加することに期待!**

技術で「羽ばたけ」世界へ未来へ～新居浜高専～
令和7年度(第21回)運営諮問会議

今年度の取組:グローバル×専門×キャリア

国内 グローバル×キャリア講演会

昨年度(令和6年度)から実施
初回の講師は、本校第一期生で現在ハワイ在住のTED Saeki (佐伯 徹郎) 氏

[4/14] 第1回: 雲林科技大学 (台湾、学術交流協定校)

協定校である台湾雲林科技大学の藤 國亮氏を講師として、「台湾における半導体産業の現状」の講演会を開催しました。学生のキャリアアップ、将来像の形成に大いに役立つ貴重な機会となりました。



[6/13] 第2回: 愛媛県短期大学(ハワイ大学学生)

愛媛県に短期インターン生として来県しているハワイ大学の学生2名を講師として、ハワイの文化や歴史について説明いただいたほか、クイズなどのアクティビティで盛り上がりがありました。



[10/21] 第3回: 雲林科技大学 (台湾、学術交流協定校)

日本の高専卒業生を受け入れるプログラムを始動しており、進路選択の一つとして本プログラムについて講演いただきました。後半では、夏に実施したサマーキャンプ参加学生からの報告もありました。



[R7/2/25] タイの紹介とタイ人から見た日本
～文化・言語・働き方の違い～ 昨年度未

テレビ、ラジオのレポーターやコンテンツクリエイターとしても活躍するタイ人の講師を招き、タイと日本の働き方や国民性の違いについて講演いただきました。



学生たちに今後のキャリアアップに役立つ企画を提供

技術で世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議

今後の取組

◆協定校等との交流(予定、検討中含む)

台湾・国立聯合大学⇒【受入】中国語教育実習生(1か月)
【受入】理工学院専門実習(1か月)
【派遣】夏季・春季専門研修(1か月)

台湾・文藻外語大学⇒【受入】中国語・英語教育実習生(5か月)
【派遣】中国語研修派遣(2週間)
オンライン交流(週1回 3か月程度)

台湾・国立雲林科技大学⇒【派遣】夏季専門研修(1～2週間)

韓国・永進専門大学校 ⇒【派遣】大邱慶北英語村英語研修(2週間)

フィリピン(セブ)語学研修⇒【派遣】夏季・春季(2週間～)

タイ・タマサート大学⇒【受入】インターンシップ生(2か月程度)
※後構本部経由での受入のため、申請中

KOSEN-KMITL(タイ高専)
キングモンクット工科大学ラカバン校附属高専(KOSEN-KMITL)や
キングモンクット工科大学ラカバン校(KMITL)との学術交流協定締結を計画中

技術で世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議





今後の取組

JSTさくらサイエンスプログラムによる受入

R8/2/24～3/1: ポリテックSTMIジャカルタ(インドネシア)から学生4名・教員1名受入
★受入にあたり、本校学生も実験・実習や生活面での協力、交流
⇒本校学生の派遣にもつなげていきたい。

グローバル×キャリア講演会

外国人の方に限らず、海外での勤務・生活経験や外国人との交流のある地元企業の方の講演等も計画中

台湾国立聯合大学 文藻外語大学実習生 市長表敬訪問
文藻外語大学教員 市長表敬訪問
日本語スピーチコンテスト 長期留学生 市長表敬訪問

新居浜市及び新居浜市国際交流協会、SGG・日本語の会・ガイドクラブをはじめとするボランティア団体の皆様には、本校の国際交流に対し多大なご支援をいただいています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

技術で世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～

技術で世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議

(5)ダイバーシティに関する事項

ダイバーシティ推進室長 塚本 亜美

技術で世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議

ダイバーシティ推進室


- 前身の男女共同参画推進室が平成24年10月に発足
- 推進体制
各科教員7名、総務課長、学生課長(9名中女性3名)
- 推進目標
学生及び教職員の意識啓発
ワーク・ライフ・バランスのための環境整備
校内のニーズの把握
- 新居浜市女性活躍推進事業所に再度認定(2022.10～)
全国ダイバーシティネットワーク組織に加盟(2019.10～)

技術で世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議

令和7年度のトピック

▶ 本科新入生の女子学生の割合は全国トップクラス
入学生 208名中 女子学生67名 **32%**

学生総数(女性内訳)	1098名(329名、 30% 全国高専平均 22%)
常勤教員総数(女性内訳)	74名(9名、 12% 全国高専平均 12%)
常勤職員総数(女性内訳)	44名(15名、 34% 全国高専平均 32%)

技術で  世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議


令和7年度のトピック

▶ ダイバーシティに関する取り組み・施策も本推進室で担っている
→ 推進室の名称を「ダイバーシティ推進室」と変更(令和7年より)

▶ サニタリー用品のボックスを常備
「置きナプキン・誰でもナプキン」

「置きナプキン・誰でもナプキン」を提唱し、校内4か所の女子トイレに生理用品のボックスを設置。緊急の際に利用できるようにすることが目的

▶ 女子学生の研究活動
高専GCON(高専女子が主体となってSDGs達成や社会課題解決に向けた技術を競うコンテスト)に、環境材料工学科の女子学生が出場
国領祭の広報コーナーでパネルを展示

技術で  世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議

令和7年度の取り組み

学生・教職員への意識啓発


▶ オンデマンド方式(オンライン)で動画を視聴【1月】

環境整備、ニーズ・実態把握

▶ 第10回第4ブロック(中四国地区13高専)男女共同参画推進担当者協議会参加【2月】

▶ 校長と女性教職員の懇談【12月】

▶ 女性教員比率向上を図るため、女性優先公募を実施

技術で  世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議


今後の課題

▶ 取り組みの検証を行いながら、推進活動を継続する

▶ ワーク・ライフ・バランスに関する各種制度の周知

▶ 研修会等を実施し、男女共同参画意識の浸透を図る

▶ 地域との連携体制の維持


技術で  世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議


 技術で  羽ばたけ
 世界へ未来へ
 ～新居浜高専～


技術で  世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議

(6)点検・評価に関する事項

副校長(評価担当) 福田 京也

技術で  世界へ未来へ～新居浜高専～ 令和7年度(第21回)運営諮問会議

点検・評価に関する事項 (1)

◆ 運営諮問会議

『新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程(抜粋)』
(設置)
第1条
地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するために本会議を置く。

(審議事項)
第2条
(1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
(2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

技術で「世界へ未来へ」 令和7年度(第21回)運営諮問会議

点検・評価に関する事項 (2)

◆ 点検・評価の体制

技術で「世界へ未来へ」 令和7年度(第21回)運営諮問会議

点検・評価に関する事項 (3)

◆ 高等専門学校機関別認証評価 (7年毎、次回R10(2028)年)

独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構
3巡目: 適合 8基準、68観点、212確認項目
4巡目: R7(2025)~ 37基準、95観点、191確認項目

改善事項: ※学校構成員及び学外関係者からの意見聴取 ※内部質保証に係る関係委員会の議事等のプロセス

◆ 自己点検・評価 (毎年)

10基準、21視点、66観点 → 6領域、30基準、88観点

令和6年度 自己点検・評価表 R7第4回点検・評価運営委員会
令和7年度 新自己点検・評価表 R8第4回点検・評価運営委員会

技術で「世界へ未来へ」 令和7年度(第21回)運営諮問会議

点検・評価に関する事項 (4)

◆ 高等専門学校認定専攻科レビュー (5年毎、次回R11(2029))

独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構

特例適用専攻科: 学士の学位の授与に係る特例の適用認定を受けた専攻科

審査内容:

- 専攻科の概要
- 専攻科と基礎となる学科との連携
- 学則及び専攻科に関する規則
- 専攻科授業科目を担当する教員の経歴
- 専攻科の全授業科目
- 専攻科授業担当教員の個人調査

認定済 (本校の専攻科修了生は書類提出で学位取得可)

技術で「世界へ未来へ」 令和7年度(第21回)運営諮問会議

点検・評価に関する事項 (5)

◆ 「国立高専教育国際標準(KIS)」 (6年毎、次回R12(2030))

(KIS; KOSEN International Standard) 独立行政法人 日本工学会教育協会

国際的な教育の質保証の枠組み
高専の本科教育(5年間)の質保証を国内外に明示

R6年 5月20日: KIS自己点検書・点検シート提出
R6年10月7-9日: 実施評価
R7年 3月: 認定結果公表

基準	評価チーム	日工教認定結果
基準1 学習・教育到達目標の設定と公開	S(S,S)	S
基準2 教育手段	W(W,S,S,S,S)	W
基準3 学習・教育到達目標の達成	D(W,D)	W
基準4 教学マネジメント活動による教育改善	S(S,S)	S

W評価: MCCの各科目への紐づけが完全でなく、MCCで定められた到達目標を達成せずに卒業する学生がいる可能性あり

対応済 (MCC紐づけ確認済、MCC対応科目未取得学生の指導体制、3年後再評価)

技術で「世界へ未来へ」 令和7年度(第21回)運営諮問会議

点検・評価に関する事項 (6)

◆ 各種調査

学生からの意見・要望数 133

回答	学科	所管部門	小計
授業	47	23	70
生活	3	31	34
設備	6	23	29
回答・検討・改善数			133

卒業生・修了生アンケート (R6年度卒業・修了学生)

R7第5回点検・評価運営委員会

【総合満足度】 思い描いていた卒業後の将来像のために、卒業生は成長をましたか?

【DP関係満足度】

【教育全般満足度】

91% 90%

校内役職者アンケート (役職者に対する意見)

R7第5回運営会議

意見・要望数 14
回答数 14

技術で「世界へ未来へ」 令和7年度(第21回)運営諮問会議



技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～



技術で羽ばたけ 世界へ未来へ ～新居浜高専～

令和7年度(第21回)運営諮問会議

第20回運営諮問会議における委員からの主な意見とその対応状況について

	委員からの意見	対応状況
1	地域連携及び社会貢献について	
	新居浜高専の情報をもっと地元（新居浜市）の人に分かるように新居浜市と協力して発信してほしい。	新居浜市との連携協力推進会議において新居浜市シティープロモーション課と協力し、学生の活躍及び学校行事について学生主事及び広報推進室がとりまとめて発信していくことになりました。
	新居浜市に根付くような商品を学習や遊びの中で開発していただきたい。	商品化のためには、地域企業や教員、学生が繋がって創り出すのがベストと考えます。ゆくゆくは、地域に根付く人材輩出につながると思いますので、そのシステムの構築に、企業からの資金提供や人材派遣の協力を頂きますと高専側としては大変有難いと考えます。
2	学生募集及び入学後のサポートについて	
	女子の入学者が増えていることについて、自然に増えたのか、何か工夫をされたのか教えていただきたい。	科学技術振興機構(JST)の事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」(平成30年度～令和元年度)に採択され、女子中学生を対象としたイベントを実施したことがあります。最近では高専GCON(高専GIRLS SDGs×Technology Contest)での女子学生(日本代表として国際学会に参加し「文部科学大臣特別賞」)の活躍があります。また、進路先での活躍、社会全体の理科系女子への注目もあり、個々の学内イベントに限らず総合的に理系への進路選択が増えてきたことも一因と思われます。
	入学後の学生にミスマッチが生じた際にどのようなサポートをされているのか、そのことについてどのようにお考えかお聞かせいただきたい。	事前に学校生活を理解していただくため、国領祭における受験相談コーナー、保健管理センターが希望者に対して実施する事前相談、中学校の校長及び進路指導担当教員が参加する地区別学校説明会で学生の動態について一部を説明・紹介しています。入学後にミスマッチが生じた際には、学生にとって一番良い解決となるよう担任や保健管理センターを中心に、ケースによっては学外のカウンセラー及び保護者を交えサポートする体制があります。
3	カリキュラム・教育について	
	蓄電池分野の実効性を高めるために、電池と材料の理解を深める電気化学、反応工学、材料工学などのカリキュラムをお願いしたい。	現在COMPASS事業において、基礎化学及び専門での化学・材料科目と蓄電池分野との関わりを学ぶ取り組みを行っています。

	課題解決力の強化を目的とした実効性や実践的な教育を実施していただきたい。	各学科においてPBL型の教育を取り入れており、課題解決力の強化を目的とした実践的教育を行っていますが、5年間の体系的な取り組みになっていないので、今後これらを体系化することを目指しています。
	新居浜高専に土木建築関係の学科がないので、専門選択科目に土木建築系やエンジニアリング総合科目を追加することをご検討いただきたい。	本校では特別課程を実施しており、そのような中に科目を入れることは考えられますが、一方で既存授業との連続性の確保や授業科目のスリム化が重要課題となっており、現時点では土木建築系の科目の追加は考えておりません。
4	その他	
	BYODは全国の高専で一律に導入されているのか。	一律に導入されているわけではなく、各校の情報教育の実情や端末室の状況に応じて導入をしています。少なくとも今後、導入の拡大が予想されます。
	卒業生がUターンを検討することに備えて継続的な情報提供や関係づくりに力添えいただきたい。	本校HP内で新居浜市へのUターン就職を希望する新居浜高専の卒業生と、ものづくり企業との橋渡しを行う連携体制を公開しており、継続して情報提供や関係づくりに協力しています。
	インターンシップの時期について、学生が企業を検討する時間を十分に取れるように早い時期の実施を検討いただきたい。	インターンシップに限らず、社会や企業を知るための活動の充実を図っています。具体的な取り組みの一つとして、本校で実施している企業セミナーを低学年から参加できるようにしました。
	ダイバーシティを考える上で運営諮問会議委員に女性委員を増やす取組も必要だと感じた。	運営諮問会議委員は、規程にある設置及び審議事項を達成する組織となるよう関係する外部機関の運営に携わる役職者に委嘱しております。本会議にて、ご所属先の女性からのご意見もいただきたく、また今後本校としても委嘱先機関を検討して参ります。なお、本校では全学科・科に女性教員が所属しています。R7年度もR6年度と同様に学校側から運営諮問会議に出席する女性比率は、全教員に占める割合より多くなっております。

新居浜工業高等専門学校運営諮問会議規程

平成17年2月8日規程第2号

(設置)

第1条 新居浜工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を確保するため、運営諮問会議（以下「会議」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 会議は次に掲げる事項について、校長の求めに応じ意見を述べるものとする。

- (1) 本校の運営基本方針及び教育研究計画に関すること。
- (2) 本校の教育研究活動及び地域連携活動等の評価に関すること。

(組織)

第3条 会議は、本校の教職員以外の者で、高専に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから、校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任することを妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、委員に欠員を生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第5条 会議の議長は、委員の互選により選出する。

- 2 議長は、会議の会務を総括する。

(運営)

第6条 会議は、校長が招集する。

- 2 会議は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 校長は、運営諮問会議での審議事項について、運営会議に報告するものとする。

(事務)

第8条 会議の事務は、総務課において行う。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成17年2月8日から施行する。
- 2 新居浜工業高等専門学校外部評価委員会規程（平成13年8月29日規程第8号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成24年11月27日から施行する。

令和7年度（第21回）

運営諮問会議報告書

令和8年4月

新居浜工業高等専門学校総務課

〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7番1号

TEL：(0897)37-7700

FAX：(0897)37-7842

H P：www.niihama-nct.ac.jp